

《Lesson 4》文の途中で使われる副詞（否定文）

まず否定文にする際に気をつけないといけない副詞がいくつかあります。

(1) **always**

not always は「いつも～しない」「全く～ない」という意味ではなく「いつも～というわけではない」という意味になる。

<例> He is not **always** busy. (彼はいつも忙しいわけではない) (彼はいつも忙しくない=×)

* 「全く～ない」は **never** を使って表す。

<例> He is **never** busy. (彼は忙しいことは全くないです)

(2) **also**

also は、基本的に否定文では使われない。否定文で「～も」という場合は文の最後に、**either** を足すのが主流。

<例> 「私も先生ではありません」

I am not a teacher, **either**. =○ I **am not also** a teacher. =×

そして、否定文を作る際は文の種類（be動詞の文・一般動詞の文・助動詞の文）のルールをそのまま使います。

(1) **be動詞の否定文 = be動詞 + not + 副詞**

<例> He is not **usually** late. (彼は、いつもは遅れません)

(2) **一般動詞の否定文 = do /does + not + 副詞**

<例> I do not **always** eat breakfast. (私はいつも朝食を食べるわけではないです)

(3) **助動詞の否定文 = 助動詞 not + 副詞**

<例> We **can't usually** use this room. (私たちは、たいていこの部屋を使えません)

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。